

# なかま

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.14号

平成25年 8月25日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

枝渡る リスは急ぎか 果を落とし  
蝉しぐれ かばねに風の 透けており

## 今日の行事

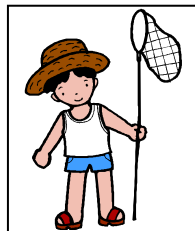
仮校舎最終日

## 今後の行事予定

- 8月31日(土) 元の校舎で授業再開  
算数・数学なし
- 9月8日 JASL 入学式 ADULT 秋季授業開始
- 9月29日 前期最終日(通知表渡し)  
幼稚部親子ピクニック
- 10月6日 後期開始
- 10月27日 漢字検定

## 次週は土曜日授業になります!

ライダー大学の新学期の開始に伴って大学生がキャンパスに帰ってきます。日曜日はその前日に当たり新入生等の移動日になりますので、校舎が使えません。よって、その前日が授業日になりますのでご理解ください。



## ノースホールの改装工事が最終段階に!

5月19日から仮校舎での勉強を余儀なくされてきましたが、窓とエアコンの工事が終わって来週から、新装なった元の校舎にもどれることとなります。皆さんには不便をかけてしまいました。

元にもどってもこれまでと同じように、大学の施設を大事に使うように心がけましょう。毎日のその心構えが、貸主であるライダー大学の人たちの私たちへの評価がよくなることに結びつきます。信頼関係は一朝一夕には築けませんが、不信の心は一瞬に芽生えるものです。もし、器物をこわしたり大事にしなかったりすれば、ああやっぱり彼らはルールを守れない人たちなのだと思われると思います。そして最悪の場合は校舎を借りられなくなることも考えられるのです。

私たち一人ひとりのプリンストン日本語学校を大事にしようと思う心が、大学関係者の心証をよくし、結局は私たちへの評価が上がるのだと思います。

授業日の緊急の連絡は次の携帯をご活用下さい。

須藤 609-903-9014 長尾 609-903-9015

日本の学校(8)「中1ギャップと呼んでいる」

小学校の教室で先生に「お母さん」と言ってしまっただけで、周りから笑われることはよくありますが、そういってしまうような雰囲気は教室にはあるのだろーと思ひます。小学校はどちらかと言へばお母さんのように優しく寄り添って教えるようなところがあります。3分の2以上は女の先生でもあります。一般的には、数校の小学校の卒業生が一つの中学校に入学してくるようになりますが、教科担任制になることだけでなく、お母さんのようなよりはお父さんのような厳しさを前面に出した指導体制になり、自主性を育てるという意味でも、生徒会やクラブ活動では生徒主体の、きまりを前提にした生活を強いられます。それが小学校を卒業して2週間余で環境が突然に変わるために、不登校になる生徒も急増し、ほとんどの生徒がストレスを抱えることとなります。その現象を私たちは中1ギャップと呼んでいます。そのことには賛否があつて、自立が促されてよいという意見と、もっと緩やかに小学校のような雰囲気を取り入れようという意見があり、どちらにも正当性があります。中学校でも女の先生が半数を超えるような状況にもなり、小学校的な取り組みをしようという声も多く聞こえて来そうです。

一方では、社会はそんなに甘いものじゃないのだから、現実の厳しさをしっかり身につけるべきだし、職場体験などを積極的に行つて早いうちから仕事の厳しさを教えるべきだという意見も強いのです。近年では就職試験に親が同行するなどという現象も当たり前前のようになり、昔とは様変わりしていることは実感しながらも、世の中がすべて母親的なものになることにはいささか抵抗を感じます。

学校で授業妨害したり暴れたりする生徒は、家庭でのわがママをそのまま学校に持ってきて、自制する心が弱く、自分中心性が抑えられずにいるようです。これなども、自分が社会と対峙するのではなく、自分の一部のような家庭空間をそのまま外で求めているようにみえます。社会現象と言へるかもしれませんが、父性的な空間が狭まり母性的な空間が広がってきているのは疑いようがありません。

中1ギャップは、そのような時代を反映して学校に現れた一つの現象だと思ひます。不登校や非行が増加するのを防ぐために6・3・3制の見直しを試行する動きもあり、その必要性に理解をしつつも、誰もが社会で生きていくうえで根本的に欠かせない「自立心」を大人総体が育てることを怠っていると、ここに大きな問題があるのではないかと思ひています。